

## 目から鱗！楽々時系列2 基本例題②（期末ストックを有効に使おう）。

### 【公認会計士試験用の連結ツール】

基本例題①で紹介した方法の特長は次の3点でした。①当該年度の処理だけで全て完結。②親会社に帰属する利益剰余金当期首残高・当期末残高が単独で算出可能。③当期純利益の検算が可能。今迄使っていた表に僅かに手を加えるだけで使い勝手が確実に良くなります。Let's try!!

【例題】『楽しく学ぼう！連結会計5』の内容に基づいています。

P社は平成X1年12月31日にS社の発行済議決権付株式総数の75%を440,000円で取得した。  
連結財務諸表作成上の留意事項

- 平成X1年12月31日(支配獲得日)において投資と資本の相殺消去により発生したのれんは、支配獲得日の翌年度から20年間にわたり毎期均等償却を行う。
- 平成X1年12月31日～平成X3年12月31日にP社のS社株式の保有状況に変動はなかった。
- 平成X3年6月25日にS社は剰余金の配当を20,000円行った。
- 資料として与えられている事項以外は考慮しないこと。

### 平成X1年度S社個別貸借対照表

#### S社貸借対照表

平成X1年12月31日

(単位:円)

諸	資	産	920,000	諸	負	債	600,000
				資	本	金	250,000
				利	益	剰	余
				金			70,000
			920,000				920,000

### 平成X2年度S社個別貸借対照表

#### S社貸借対照表

平成X2年12月31日

(単位:円)

諸	資	産	960,000	諸	負	債	600,000
				資	本	金	250,000
				利	益	剰	余
				金			110,000
			960,000				960,000

### 平成X3年度S社個別貸借対照表

#### S社貸借対照表

平成X3年12月31日

(単位:円)

諸	資	産	1,000,000	諸	負	債	600,000
				資	本	金	250,000
				利	益	剰	余
				金			150,000
			1,000,000				1,000,000

※ 今回の例題はその趣旨（時系列表の確認）から、P社財務諸表と解答欄を省いています。

※ 以下、連結第2年度の処理を中心に確認します。以後、全ての例題についても同様です。

【時系列表（ストック・アプローチ）】（単位：円）

	X1. 12/31	連結第1年度	X2. 12/31	連結第2年度	X3. 12/31
資本金	250,000		250,000		250,000
利益剰余金	<u>70,000</u>		<u>110,000</u>	+40,000	<u>150,000</u>
合計	<u>320,000</u>		<u>360,000</u>		<u>400,000</u>
非・持分比率			25%	25%	25%
非支配株主持分			90,000	+10,000	100,000
親・持分比率	75%		75%	75%	75%
親会社帰属のれん	240,000		270,000	+30,000	300,000
のれん	<u>200,000</u>	▲10,000	<u>190,000</u>	▲10,000	<u>180,000</u>
親会社持分	<u>440,000</u>		<u>460,000</u>		<u>480,000</u>
子会社株式	440,000		440,000		440,000
利益剰余金			<u>20,000</u>	+20,000	<u>40,000</u>

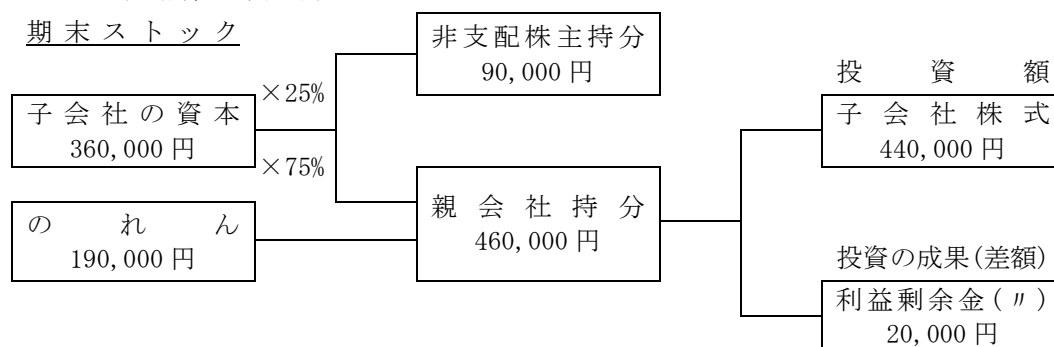
【まとめ】 p.3 ◆ 当期純利益の消去・振替 ~ ◆ 配当金の相殺消去等

当期純利益	※ 60,000	剰余金の配当	※ 20,000
利益剰余金		利益剰余金	
※第3年度に利益剰余金当期首残高として引継。		非支配株主持分当期変動額	10,000
		のれん	10,000
		親会社株主に帰属する当期純利益	※ 20,000

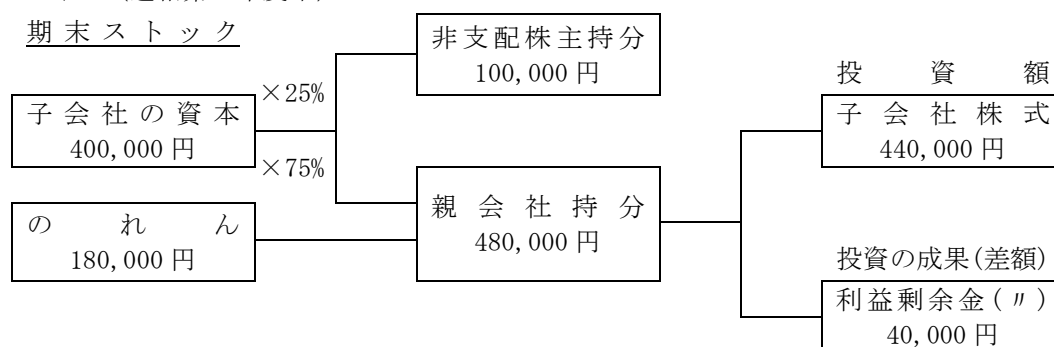
連結第2年度における個別上の利益剰余金 40,000 円の増加を、連結上は非支配株主持分と親会社持分に按分・振替を行っていることが【時系列表】と【まとめ】により確認できます。

【枝分かれ図（ストック・アプローチ）】（参考：この図は下書きしないで下さい）

◆ X2. 12/31（連結第1年度末）



◆ X3. 12/31（連結第2年度末）



## 【楽しく学ぼう！連結会計5・損益計算書】

## 平成 X3 年度 S 社個別損益計算書

## S 社 損 益 計 算 書

自平成 X3 年 1 月 1 日

至平成 X3 年 12 月 31 日

(単位:円)

諸 費 用	140,000	諸 収 益	200,000
当 期 純 利 益	60,000		
	200,000		200,000

【仕訳一巡(連結第2年度期首～連結第3年度期首)】連結会計の目的である事業投資の成果の計算や親会社持分の把握を連結仕訳だけで完結させる為、本来の連結手続きではない、S社当期純利益の個別消去・連結振替を追加しています。この趣旨から各項目の内、個別同士、連結同士は相殺し、個別と連結の相殺は行いません。なお、青枠が親会社持分です。

## ◆ 連結第2年度開始仕訳 (ストック・アプローチ) (単位:円)

資本金当期首残高	250,000	子会社株式	440,000
利益剰余金当期首残高	110,000	利益剰余金当期首残高	20,000
のれん	190,000	非支配株主持分当期首残高	90,000

## ◆ 当期純利益の消去・振替 (本来の連結手続きではありません)

当期純利益 個別	60,000	当期純利益 連結	60,000
-------------	--------	-------------	--------

◆ 当期純利益の非支配株主への按分:  $60,000 \times 25\% = 15,000$ 

非支配株主に帰属する当期純利益	15,000	非支配株主持分当期変動額	15,000
-----------------	--------	--------------	--------

## ◆ のれんの償却

のれん償却額	10,000	のれん	10,000
--------	--------	-----	--------

## ◆ 配当金の相殺消去等 (配当金の受領により親会社と非支配株主両者の持分が減少)

受取配当金	15,000	剰余金の配当	20,000
非支配株主持分当期変動額	5,000		

## ◆ 連結第3年度開始仕訳 (ストック・アプローチ=フロー・アプローチ)

資本金当期首残高	250,000	子会社株式	440,000
利益剰余金当期首残高	150,000	利益剰余金当期首残高	40,000
のれん	180,000	非支配株主持分当期首残高	100,000

※ 試験で開始仕訳が問われた場合、(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。



【時系列表（ストック・アプローチ）】（単位：円）

親会社株主に帰属する当期純利益の検算：

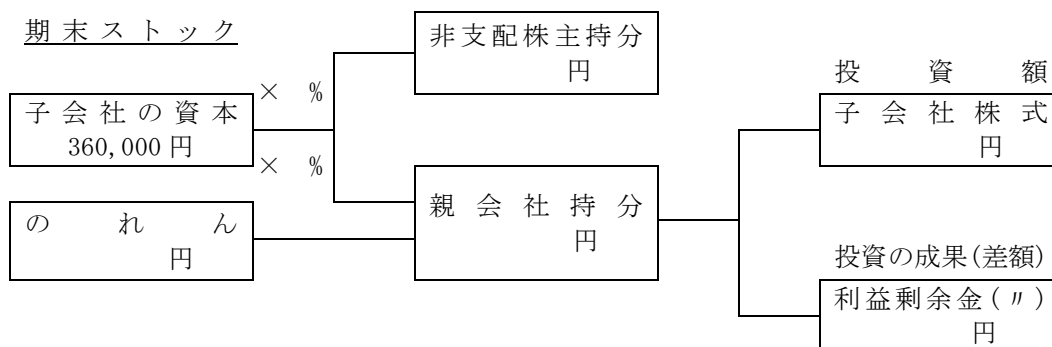
	<u>X1. 12/31</u>	連結第 1 年度	<u>X2. 12/31</u>	連結第 2 年度	<u>X3. 12/31</u>
資 本 金	250,000		250,000		250,000
利 益 剰 余 金	<u>70,000</u>		<u>110,000</u>	+ <u>40,000</u>	<u>150,000</u>
合 計	<u>320,000</u>		<u>360,000</u>		<u>400,000</u>
非・持分比率					
非支配株主持分					
親・持分比率					
親会社帰属					
のれん					
親会社持分					
子会社株式					
利益剰余金					

※ 利益剰余金当期変動額 40,000 = 当期純利益 60,000 (親会社分 45,000 + 非支配株主持分 15,000)  
 - 剰余金の配当 20,000 (親会社分 15,000 + 非支配株主持分 5,000)

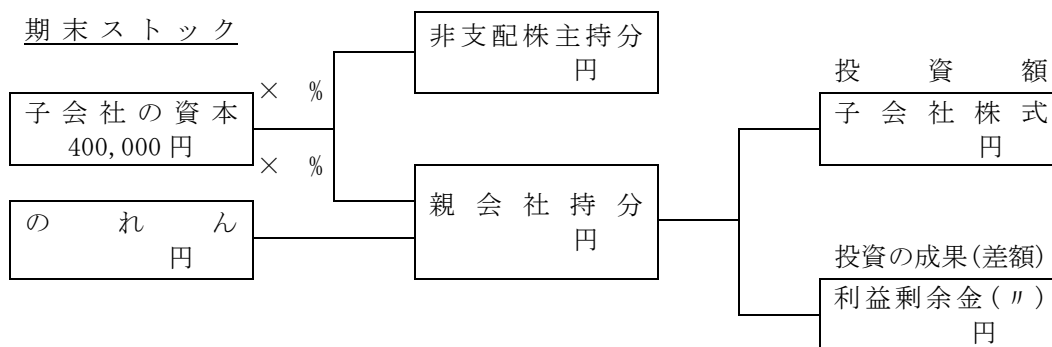
基本例題①と異なり、時系列表の利益剰余金 40,000 の純増には配当金の受取による親会社持分の減額 15,000 (▲受取配当金) が反映されている点にご注意下さい。

【枝分かれ図（ストック・アプローチ）】（この図は理解用です。時系列表だけの処理が目標です）

◆ X2. 12/31 (連結第 1 年度末)



◆ X3. 12/31 (連結第 2 年度末)



## 【楽しく学ぼう！連結会計5・損益計算書】

## 平成 X3 年度 S 社個別損益計算書

## S 社 損 益 計 算 書

自平成 X3 年 1 月 1 日

至平成 X3 年 12 月 31 日

(単位：円)

諸	費	用	140,000	諸	収	益	200,000
当	期	純	利	益			
			60,000				
			200,000				200,000

## 【仕訳一巡(連結第2年度期首～連結第3年度期首)】

ストック・アプローチでは個別同士、連結同士は相殺し、個別と連結の相殺は行いません。

◆ 連結第2年度開始仕訳 (ストック・アプローチ) (単位：円)

◆ 当期純利益の消去・振替 (本来の連結手続きではありません)

◆ 当期純利益の非支配株主への按分

◆ のれんの償却

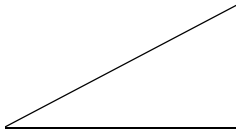
◆ 配当金の相殺消去等

◆ 連結第3年度開始仕訳 (ストック・アプローチ=フロー・アプローチ)

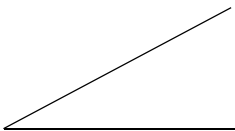
※ 試験で開始仕訳が問われた場合、(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

【財務諸表一巡】下の S 社財務諸表を P 社財務諸表と合算すれば連結財務諸表は完成します。

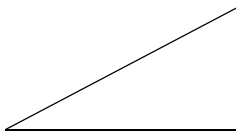
平成 X2 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表			
平成 X2 年 12 月 31 日			
		(単位:円)	
諸	資	産	960,000
		諸	負
			債
			600,000
			
<hr/>		<hr/>	

平成 X3 年度修正後 S 社損益計算書

S 社 損 益 計 算 書			
自平成 X3 年 1 月 1 日			
至平成 X3 年 12 月 31 日			
		(単位:円)	
諸	費	用	140,000
		諸	収
			益
			200,000
<hr/>			
<hr/>		<hr/>	

平成 X3 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表			
平成 X3 年 12 月 31 日			
		(単位:円)	
諸	資	産	1,000,000
		諸	負
			債
			600,000
			
<hr/>		<hr/>	